

あ と が き

今年度は、実りの多い一年でした。

私たちはここ3年間、研究主題を「学びの質の高まりをめざして」と設定し、子どもの学びの質を高めるための授業改革・カリキュラム改革・学校改革に取り組んできました。この一連の取り組みを、「『質の高い学びを創る授業改革への挑戦』～学習指導要領を超えて～（東洋館出版・2009年10月刊）」として出版することができました。

「複式教育研究会（6月）」「夏季教科等研修会（7月）」「教育研究発表会（10月）」「ICT活用授業研究会（1月）」と合わせて4回の研究会を行い、全国各地から2100人もの先生方のご参加いただきました。その数は年々増えてきています。

夏季教科等研修会の全体会では、東京大学大学院教授の佐藤学・岡本和夫先生を講師としてお招きし、3年生算数の提案授業を観ていただいた後、『数学的な考えを育てる授業改革』というテーマで対談形式でご指導いただくという新たな試みも行いました。「3桁+3桁=3桁」という筆算で、1～9までの数字のカードを入れて正しい式を完成するという課題で授業を行いました。子ども達は4人グループで楽しく課題に取り組んでいました。前半部分のいくつかの数字が分かっている場合は、論理的に考えられて説明もしっかりできていました。ただ、後半部分の9つとも分からない場合は、見つけたいくつかの式からきまりを発見し新たな式を見つけることは、3年生には難しかったようです。子ども達の育ちは褒めていただきましたが、指導者として子ども達がこの課題でどう学んでいけるのかという見通しに甘さがあったのではという指摘も受けました。今年度のサブテーマは、「課題に向かう対話を深める」です。私たちが教材（課題）の魅力として感じたことを、どうすれば子ども達が協同的な学びの中でつかんでいけるのか、もっともっと子どもの側に立って課題について考え直すことが必要だと思います。

教育研究発表会では、東京大学大学院教授の秋田喜代美先生を講師としてお招きし、「新学習指導要領を超えて～学びの質を高める対話～」と題してご講演いただきました。秋田先生には、固有名で子ども同士が語り合っている育ちが見える学校・子ども達の言葉の層の厚さがある・子ども達がすでにもっている知識とつなげられているなど、お褒めの言葉をいただきました。その上で、言葉が流れていないかを吟味することでもう一つ上の段階にという「言葉の吟味・考えの吟味」という宿題をいただきました。私たちの研究もよりきめ細かく吟味することで、さらに充実したものにしていきたいと思っています。

秋田先生には、来年度10月30日（土）の教育研究発表会にもご指導いただきます。

また、文化的に貴重な体験がたくさんできました。文部科学省の「学校図書館の活性化推進総合事業」の委託事業を受け、教科書教材の作家「あまんきみこ」さんによるお話と読み聞かせ・茂山千五郎家による「附子」「柿山伏」の狂言鑑賞会・馬頭琴演奏とのコラボによる「スーホの白い馬」読み聞かせ・ALTによる英文絵本の読み聞かせを行いました。他にも、文化庁の「本物の舞台芸術体験」の一環として大阪フィルハーモニー68名による演奏も聴くことができました。このように、子ども達に「ほんまもん」の体験をさせることが出来たのは幸せなことだと思っています。

本年度、子ども達の「学び」を中心にすえ、試行錯誤しながら歩んできた一端が、本紀要です。本校の研究の理念や歩み、さらに教員一人ひとりのこだわりや主張点を感じていただければと願います。ご一読いただきご教示いただければ幸いです。

副校長 北原博男